

ISUT20008 発表論文

“霊人体と肉身の授受作用について；現代科学と統一思想の観点から”

川崎こころ病院 石井 洋（医学博士）

※本論文は拙著 “The Mind-Brain Problem, Natural Science, and Suggestions from Unification Thought” の一部分をなすものである。詳細は拙著を参考にして頂きたい。

1. イントロダクション

本論文の目的は心脳問題に関して現代科学と統一思想の立場から唯物論を克服する具体的なモデルを提示することである。統一原理と統一思想の中では人間には霊人体と肉身の二つの身体があるとされ、それらが相互作用するとされている。それではそのような相互作用はどのようになされるのであろうか？その相互作用の中で脳神経系の役割は何であらうか？その相互作用は物理学の中で重要視されるエネルギー保存則を侵さない形でなされるのであろうか？結論から先に書けば、「霊人体と肉身の脳神経系を介した授受作用は“情報・ゆらぎ・共鳴”というメカニズムを通してなされる」と考えている。以下にその内容を具体的に説明していきたいと思う。

2. 原理と統一思想の立場から

統一原理の中では霊人体と肉身の関係は主体と対象の関係であるとされている（講論 86）。つまりまずは霊人体における作用があつてそれが肉身に影響を及ぼしていると見る。霊人体から肉身への介入が全くないとすればその考え方は唯物論である。また人間は死によって肉身は朽ち果てるけれども霊人体のみの姿となって霊界において永遠の生を送るとされている（講論 86）ことから、霊人体と肉身がそれぞれ独立性をもっていると考えられる。

また一方で肉身から霊人体へも何からの影響が及ぼされる事は Rev.Moon の以下のようなスピーチの内容からも明らかである；

“地上界で暮らす間、皆様の一挙手一投足は、このような天の公法を基準として、一つ残らず皆様の霊人体に記録されます。したがって、霊界に入っていく皆様の姿は、肉界での人生を 100 パーセント収録した霊人体の姿です。”（平和訓経 No.3；57）

すなわち肉身で経験した様々な内容は霊人体に記録される。なお統一原理の中では霊人体と肉身の相互作用に関して生霊要素と生力要素が授け受けされるとされている（講論 8 6）が、本論文ではそれについては触れない事とする。現代科学において知られている事実とのギャップが大きく、現段階では論考できる状況には無いためである。

創造原理の中では霊人体と肉身の相似性について、また霊人体と肉身の共鳴現象について以下のような記述がある；

“霊人体はその肉身と同一の様相であり、肉身を脱いだ後には無形世界（霊界）に行って永遠に生存する。”（講論 8 6）

“霊人体に感じられるすべての霊的な事実は、そのまま肉身に共鳴され、生理的現象として現れる”（講論 8 7）

“人間は二つの世界の媒介体…、人間はちょうど二つの音叉を共鳴させる時の空気のようなもの”（講論 8 4）

また統一思想の認識論（要綱 5 2 1—5 9 8）の中では脳神経系の活動と意識および意識の内容（観念）に関する記述がある。脳神経系において情報が電氣的に、またはシナプスにおける化学物質の放出を通して伝達される時、その背後には意識現象が伴っている（要綱 5 6 2、5 8 4-5 8 7）。また主観的な観念と神経の活動パターンとしての記号が相互に変換されるメカニズム（記号の観念化と観念の記号化）があるに違いないとされている（要綱 5 9 1-5 9 2）。

3. 脳科学の立場から

脳においては知的情報処理と情動的情報処理の二つの経路がある。それぞれ、大脳半球の外側面と内側面が担っている（LeDoux 1 6 4、2 9 7）。一方、脳幹と視床から上向性に大脳皮質に向かう経路は覚醒状態（Kandel 8 9 6-8 9 7）と関連している。視床と大脳皮質の双方向性の神経回路は意識現象（エーデルマン 8 9-9 2）との関係が指摘されているが未だその機能の詳細は不明である。

4. 情報・ゆらぎ・共鳴

情報とは何であろうか？情報とはある種のパターンがある認知的内容を運ぶものであり、二つ以上のものの中でやり取りされるものである（Ishii 6 2；フ

オン=バイヤー 40-52)。情報はエネルギーや物質とは異なる。情報はむしろエネルギーや物質の配置やパターンによって運ばれるものである。そのためパターンの違いに対して敏感なシステムに対して、エネルギーは同一でも異なった情報を伝達する事が可能である。

脳は時間的空間的に様々なパターンを表現することができるシステムである (Kelso 257-285)。そしてそれらのパターンが情報を表現していると考えられる。空間的パターンとしては、大脳皮質は球面状になっておりそのどの部分で神経細胞が活動しているのかということ、また経験や学習によって特定の神経ネットワークが連結を強めるようになっていくこと、等が挙げられる。時間的パターンとしては脳波によって表現されるような電磁波のリズムがあること、また同期して振動するニューロン群があること、等がある (Buzsáki 136-174)。ホーキンスという脳科学者は大脳皮質全体がひとつの大きな階層構造を構成して情報処理するモデルを提示している (ホーキンス 120-193)。

次にゆらぎについて考察する。自然界の現象はすべてゆらいでいる (Oxford Dictionary of Physics 186)。厳密に成り立つとされている物理法則もあくまでもゆらいでいる様々な観測値の平均値に対して成り立っているものである。すなわちある物理的な系に対して霊的な介入があったとしてもそれがゆらぎの範囲内であれば、エネルギー保存則を侵さないものとして観測されることになる。

脳の中には様々な次元のゆらぎがある。もっとも根本的な次元のゆらぎは神経伝達物質の放出が確率的にしかなされないというところにある。活動電位がシナプスに到達した時に神経伝達物質が放出される確率は 50%前後しかない (Stapp 134-135; Koch 87-91)。それ以外に脳波のようなゆらぎや同期的に振動するようなゆらぎもある (Buzsáki 111-174)。

共鳴とはどのような現象だろうか？例えば二つの音叉が共鳴する場合にそれぞれの固有振動数が一致する時に最もよく共鳴状態になる (Oxford Dictionary of Physics 455)。すなわち二つのものが共鳴するためには何らかの相似性、原理で言う所の相対基準が結ばれなければならない。そしてそれらの間に波動的な伝達がなされるのが共鳴である。

ここでひとつ大胆な仮説を提案してみる。それは物質的脳と相似形の霊的脳が存在して、共鳴現象によって情報の交換をしている、というものである。根拠は以下のようなものである；(1) 原理講論には肉身と霊人体は相似形をな

していること、(2) 相似形の脳同士であれば情報交換が非常に容易であること、(3) 人間が霊界に行った時に心をサポートするコンピュータが必要であること（それが霊的脳である）、(4) 地上界で経験した脳と心の結びつきが霊界でもそのまま保存されることが可能であること、(5) ある霊的な思想家は肉体の器官と同様の霊的器官が存在すると主張している（Barbara 4 4）。

ここでもう一度、大脳皮質と視床の関係を振り返ってみる。そうすると大脳皮質の表面上では様々な神経活動のパターンが表現される。一方、視床と大脳皮質の間の再帰的回路は意識内容と関連する。球面上のパターンと深部の意識内容がセットになって情報を表現しているシステムのようにも思われる。

また視床と大脳皮質の間の再帰的回路とは意識を霊人体に伝える為のシステムの可能性もある。自然界には縦の力と横の力が組み合わさっていることが多く、例えば電磁誘導の現象では電気的な横の円形運動が磁気的な縦の力として現れる（Oxford Dictionary of Physics 1 4 9-1 5 0）。原理の中の四位基台でも横の授受作用の力と縦の万有原力が組み合わされている（要綱 1 3 4-1 3 6）。そこから類推した時に視床と大脳皮質の間の再帰的回路は円形的な神経活動が縦的に霊人体と作用するための力を生じさせているのかもしれない。

これまでの仮説に沿って統一思想の中の観念と記号の相互変換（記号の観念化と観念の記号化）のメカニズムについて考察してみる。地上生活において様々な経験と学習を通して主観的な観念と記号としての神経活動のパターンの結びつき（カップリング）が形成される。それによってある神経活動のパターンが形成された時には自動的にある観念が主観の中に生じるようになり、また逆にある観念の操作がなされる時には自動的にある神経活動のパターンが発生するようになる。そのカップリングは共鳴によって霊的脳にも伝達されているため肉体が死んでからも継続されるものと推定される。

5. 結論と今後の研究の方向性

今回、霊人体と肉身の授受作用について、統一思想と現代脳科学の内容に基づいてひとつのモデルを提示した。このモデルはあくまでも議論や研究のたたき台にするための仮定的なものであり、今後多くの検証や修正がなされていかなければならないものである。霊人体と肉身の授受作用について今回は脳との関係についてのみ注目したが、身体全体にわたってなされている可能性も十分にある。そのためにはインドで古くから知られているスピリチュアルセンター

としてのチャクラや中国の気や経絡といったものとの関係についても調べる必要があるだろう (Barbara 30-35、67-72; ガーバー 145-154、154-163、461-516)。

<参考文献> (アイウエオ、ABC 順)

エーデルマン、ジェラルド・M; 『脳は空より広いか』 (訳者; 冬樹純子) 東京; 草思社: 2006

ガーバー、リチャード; 『バイブレーション・メディスン』 第四版 (訳者; 上野圭一) 東京; 日本教文社: 2002

『原理講論』 (三色刷) 第二版、東京; 光言社: 1995

統一思想研究院 『新版統一思想要綱 (頭翼思想)』 東京; 光言社: 2000

フォン＝バイヤー、ハンス・クリスチャン; 『量子が変える情報の宇宙』 (訳者; 水谷淳) 東京; 日経BP社: 2006

ホーキンス、ジェフ; 『考える脳考えるコンピュータ』 (訳者; 伊藤文英) 東京; ランダムハウス講談社; 2005

『平和訓経』 ソウル; 成和出版社: 2007

Buzsáki, György. *Rhythms of the Brain*. New York: Oxford University Press, 2006.

Ishii, Hiroshi. "Information and the Universe from an Unificationist Perspective" *Journal of Unification Thought* 2008; Vol.6, No 1: 52-75

Kandel, Eric R., et al. *Principles of Neural Science*. 4th ed. New York: McGraw-Hill Companies, Inc., 2000.

Kelso, J.A.Scott. *Dynamic Patterns: The Self-Organization of Brain and Behavior*. Cambridge (MA): MIT Press, 1995.

Koch, Christof. *Biophysics of Computation: Information Processing in Single Neurons*. New York: Oxford University Press, 1999.

LeDoux, Joseph. *The Emotional Brain: The Mysterious Underpinnings of Emotional Life*. New York: Simon & Schuster Paperbacks, 1996.

Martin, Barbara Y. *The Healing Power of Your Aura*. California; Spiritual Arts Institute: 2006

Oxford Dictionary of Physics. 5th ed. Ed. Daintith, John. New York: Oxford University Press, 2005.

Stapp, Henry P. *Mind, Matter, and Quantum Mechanics*. 2nd ed. Berlin: Springer-Verlag, 1993, 2004.